

意見交換  
(主なもの)

田んぼダムの普及拡大のため、実施者である農家にインセンティブを持ってもらえることが重要。農業者だけでなく一般の方々への周知も必要。



「農家へのインセンティブ、メリット」

- 実施者は農家で、どこまでインセンティブをもってもらえるかが非常に重要。農地耕作条件改善事業の活用は一定のインセンティブを与えらるもの。田んぼダムの普及には、取組農家の意見や口コミに勝るものはない。取組農家にインセンティブを持ってもらい、取組みはそんなに負担じゃないという口コミが広がればさらに普及すると考える。R6豪雨で田んぼダムの取組による米の収量や品質に与える影響なしということが明らかになった。この情報連絡会は、農林部局だけでなく河川部局と一緒にやっているという点が他県にはない取組み。農家へのインセンティブと一緒に検討してはどうか。

「非農家からの理解促進」

- 農業者だけの理解に限らず、一般の方々にも周知の必要性を感じている。水田の米生産だけでなく田んぼダムの取組を行って水害から人々の生活を守っているということを現地にのぼり旗を掲げるたりして取組の認知度を高めてほしい。山形県は水田の整備率が8割を超えていて田んぼダムに取組む基盤ができており、取組拡大の条件は整っている。新規NN事業計画策定などの機会を捉えて防災減災対策としての田んぼダムの効果を関係者にお知らせしながら普及をお手伝いしたい。

「多面的機能支払活動組織からの意見」

- 土地改良区と行政が一体となって大変いいこと。多面組織の維持が困難になってきているところもあるので、田んぼダムの取組とともに多面組織の活動継続も考える必要あり。県内全域で推進していきたい。
- 農家の理解を得ることが最優先。置賜の取組面積が低いなか、上流側の地域に対しての推進方法が課題
- 中山間地域（未整備地区）の土側溝ではちょっとした豪雨やイノシシ被害で水路法面が崩れる。その復旧作業を多面組織で地道に行っている。農地農業防災という視点で田んぼダムと併せて水路整備も進める必要あり。
- 田んぼダム米のPRや自治体のふるさと納税の返礼品などへの活用など取組農家へのメリットがあればどんどん進むと思うので前向きに検討いただきたい。

- 出席団体：(特非)みさと田園空間クリエーターズ、最上町広域協定、野川地域農地・水・環境保全組織、農地・水・環境保全組織いなばエコフィールド協議会、酒田市、村山市、東根市、山辺町、中山町、河北町、大江町、最上川中流土地改良区、最上堰土地改良区、村山東根土地改良区、浜中広岡土地改良区、農林水産省農村振興局農地資源課、山形河川国道事務所流域治水課、西奥羽土地改良調査管理事務所最上川支所、最上川下流左岸農業水利事業所、山形県土地改良事業団体連合会、新潟大学農学部、県土整備部河川課、農業総合研究センター、県農林水産部

意見交換  
(主なもの)

流域治水対策効果の見える化をして、参加機運醸成や合意形成の促進を図る。



「多面的機能支払交付金と農地耕作条件改善事業の活用」

- R2豪雨災害の内水氾濫で被災し、地域では防災意識が高まり、農地耕作条件改善事業を活用して、排水柵設置による営農の効率化と併せて田んぼダムに取組むこととなった。多面組織による農地保全管理活動にも位置付けている。町内の他の地域へ波及することを期待している。
- 日向川のシミュレーションにより、経済効果を算出し、対策の見える化により、田んぼダムの減災効果を農家に周知し、広域的な取組を推進したい。最上川の最下流の酒田市の減災のため、最上川の上流地域でも取組を推進してほしい。
- R2,4豪雨の最上川氾濫により、町内の川上の地区の農家の協力を得て、農地耕作条件改善事業を活用して水尻柵の更新工事に着手。営農における既存設備の老朽化への対応と田んぼダムの取組による多面交付金の田んぼダム加算措置適用による経済的な支援を行い、地域一体となった防災減災対策、農地の持続的な利用促進を目指して、今後も町内で積極的に推進したい。
- R2豪雨で住宅や農地で浸水被害。被害軽減のため、普及促進を図っている。今年度は市役所内の勉強会で田んぼダムの取組を紹介。今後とも改良区と調整しながら田んぼダムの整備促進を図る。
- R5から県営事業や農地耕作条件改善事業を活用して条件整備に取組んでいる。管内の約1割で取り組んでいる。今後も、組合員や非農家、地域住民の生活を守れるように推進する。

- R2豪雨の内水氾濫で家屋の浸水、道路の冠水、土砂崩れなど大きく被災。多面広域活動組織と協議して、町内の全水田で実施する計画としている。町の広報誌で取組みをPR。広域活動組織でも耕作者に設置協力を依頼。R7設置率74%。今後とも土地改良区と協力して進めていきたい。
- 町からの要請によりR3から多面広域組織で進めている。毎年春に広域活動組織から構成員に調整板の設置に関するチラシ配布。全水田の8割実施を目指している。今後とも流域治水の観点から町と協力して取組みを継続したい。

「氾濫シミュレーションについて」

- 氾濫シミュレーションにより、条件さえ整えば、非常に大きな効果が期待できる。田んぼダムは、従来の治水対策を補完する流域治水対策である。

「流域治水対策について（河川管理者より）」

- 水災害は県内のどこでも起こりうる。
- 根本的な治水対策に加えて既存施設の徹底活用、他機関との連携、流域治水対策効果の見える化をして、参加機運醸成や合意形成の促進を図る。田んぼダムの取組拡大を期待。流域治水を協力して進めていきたい
- 流域治水はあらゆる関係者が一体となって取組むもの。洪水被害軽減に大きく期待されるもので関係者の協力なくしては進められない。受益者の方々の無理のない範囲での協力、地域の防災減災につなげていけるよう取組に期待。